

第97回 東葛しぜん観察会

鎮守の森から田んぼへぶらり

伊藤敏子（船橋市）

日 時：2013年11月10日（日）9時30分～11時30分

場 所：大原大宮神社から実糲本郷公園（習志野市） 天気：曇り

参加者：一般13名、指導員15名

担当指導員：伊藤敏子 勝股政雄 林 信子 宮川榮子

電車の遅れとキャンセルがあり、定刻の時間を少し過ぎてから開始。一般参加者の3班と指導員班の4グループに分かれ、実糲駅から大原大宮神社に向かって出発。途中神社の森とその崖下の家々、実糲駅方面の地形を見て、現在家が建っている所を見ながら、40～50年前までは田んぼであったことを地図で知ることができた。大原大宮神社の鳥居脇のオガタマノキ、習志野市名木百選の太くて立派なクロマツと抱き合うようなアカガシに迎えられ神殿へ。この神社は実糲本郷で1124年に創建され、徳川家康の御成街道完成と共に鎮座されたと縁起に記されている。イザナギ、イザナミの二神が祀られている。そして夫婦タブノキの樹姿は素晴らしい、この木の枝や葉には、粘液となる成分が含まれ、昔から線香の糊料に使われていたことからビンに水と葉を入れ、ネバリを試してみせました。ナギとイヌマキ、サカキとヒサカキの葉で違いを観察。ムクロジの根元あたりでは実を拾って、水入りペットボトルに入れ、振ると泡立つことを経験してもらい、実にはサポニンが含まれ昔は洗剤代わりに使っていた先人達の知恵に感服する。

実糲公園入口ではちょうどシキミに実がついており、中華料理に使う「八角」と瓜二つなのにシキミの実は猛毒と知り驚いた。風がフアッ！と甘い香りを運んできた。カツラの落葉を拾い匂ってみると、プリンのカラメルを思わせる香りが…。香りを背にシロダモ、ヤブニッケイを見つけ、シロダモの裏は白くロウ質があることの実験、葉裏に火を近づけるとロウ質がとけて黒くなっていく様子を見て、なるほどと感心。シラカシ、アラカシ、スマジイの間を歩いて鴨田家へ。鴨田家の門をくぐるとムベのワインレッドの実がとても美しい。綺麗！ 美味しそう！ と歓声が上がる。庭園も江戸風に仕立てられ、珍しいタガヨウショウ、シロマツも見られた。東日本大震災では家の周りの地盤が40～50cm程沈下したとの話で、昔はこの土地が谷津田で地盤が緩かった証しだる。クヌギ、クマシデ、イヌシデ、アカシデの実や葉を観察、小高い四阿へ、そこから南に広がる田んぼを見る事ができた。前日の悪天候の予報、当日の朝の大きな地震とアクシデントに見舞われたが、参加者に喜ばれた楽しい観察会が決行できたことは、とても幸いでした。



境内の夫婦タブノキ、田んぼと水辺のダイサギやカルガモグループ